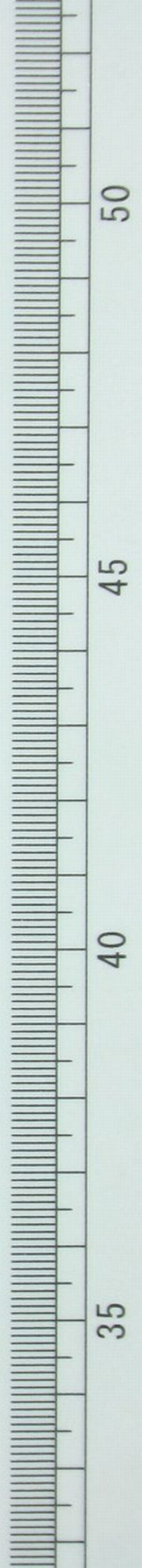


小倉文庫 特  
イ 16  
39





門 116  
號 39  
卷



寬永十八年版

新篇塵劫記

下

昭和二十七年  
六月二十一日  
受入





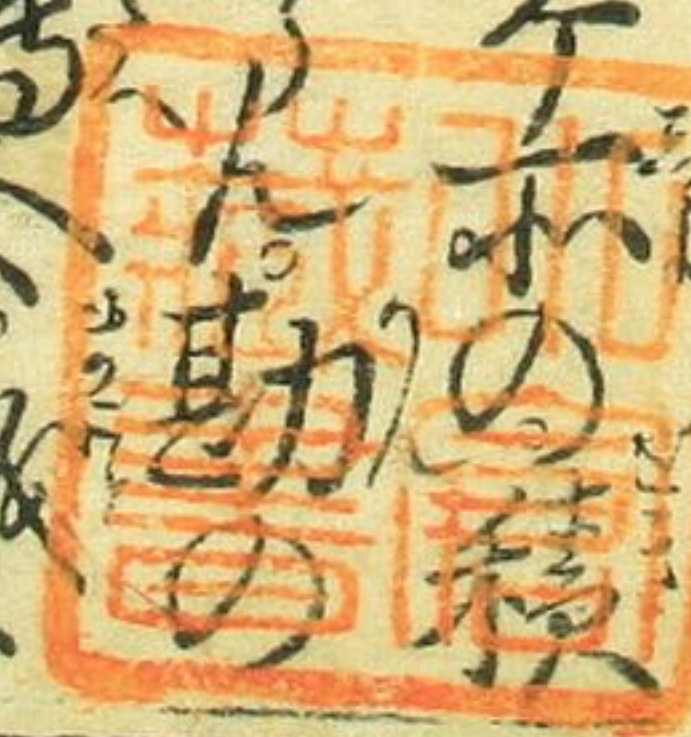
新篇塵劫記

下

寛永十八年



新篇塵劫記下巻の四十二ヶ所の積  
算とわけを述べ内にも違闕ありた助の  
在者女入をいふとたゞ一て世は傳へる



国家の重宝なる一又世は算助の  
至者教人のいふに及ぶなりとて其  
助者の位とよのつ子の念をいふも只  
るるれは上科といふをいひるの故は其  
助者の位とたゞ清人の見よけんため  
今付巻よけと除ておき知十二ヶ所を

塵劫記

下



勤者ハはふんの法と住して世は儉へ！  
 死を住するは経をまゐるや或はかんごん  
 わまとして其身の心はわかるといふこと  
 勤とあてをよけれおまては又勤の  
 器用なりといふは師はわらう勤者ハ  
 わらうといふとふか我はかよ製衣する所の  
 算書十五卷をまゝして算藝は名  
 わるハ六藝の一ツは倣て不庸と  
 云事なり

吉田光由



日月の地とさうゆ

さう四万二千由旬と云

但是と六六町一里より

つりてはゆりてさう向

日月の

さう拾二万二千里

方山ハ五千由旬と云

是と六六町一里より

つりてはゆりてさう向

二万三千三百三十三里十二町と

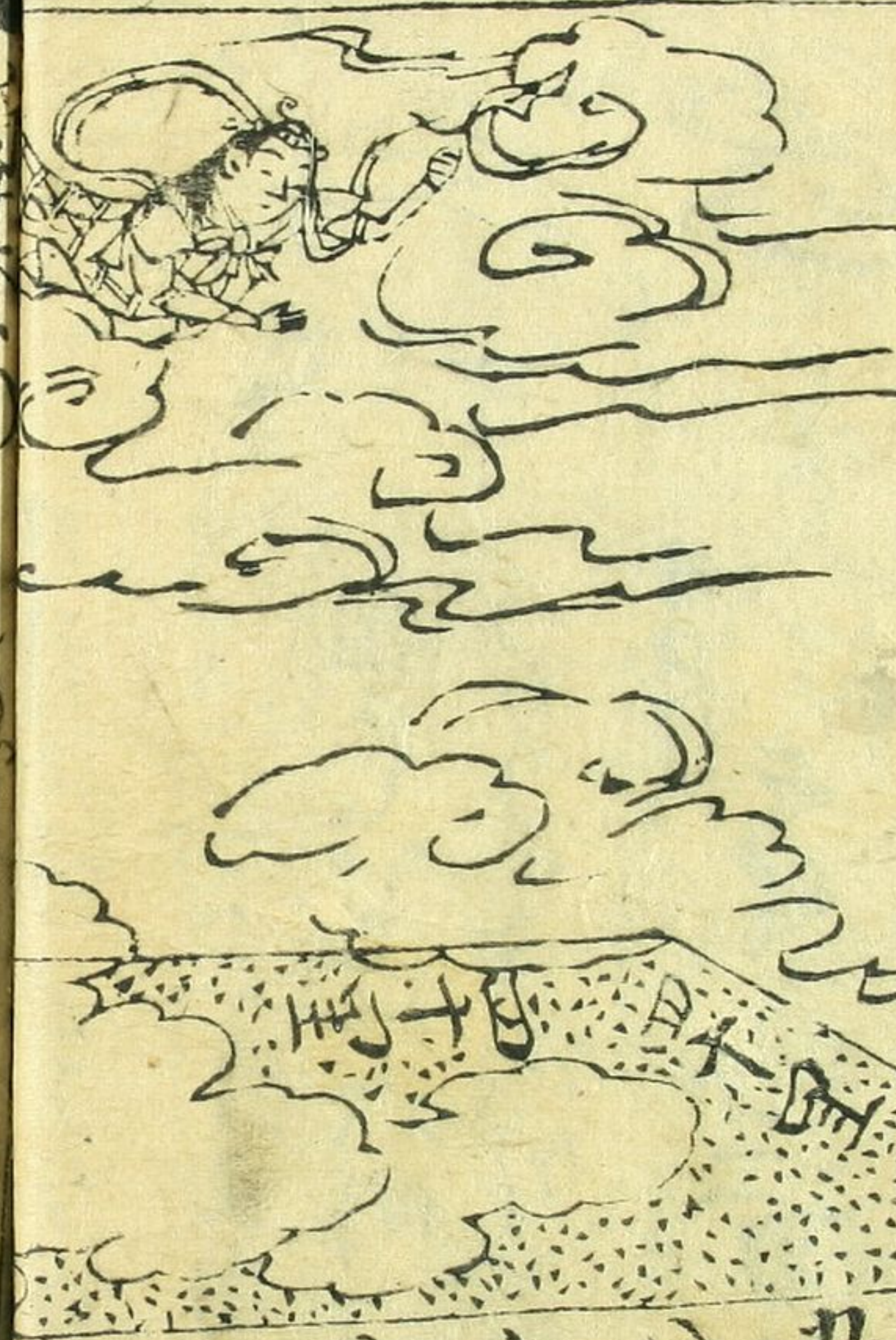
二万三千三百三十三里十二町と





けー一劫より又四十里四方六面の穀三  
入らげーの穀と三年より一割と云

天人の物衣いてまぐらり  
つららりすと一劫と云



四十里  
けーの穀

四百廿四垓

八千六十五

京四千七百

八千四兆

粒を

米粟のそんの同ツ年二つぶをて次よ  
又二ツを同しよ。一をいつよ。まうして

ん中よ。何れども同

米四十京二千九百七十

五兆二千七百所二億

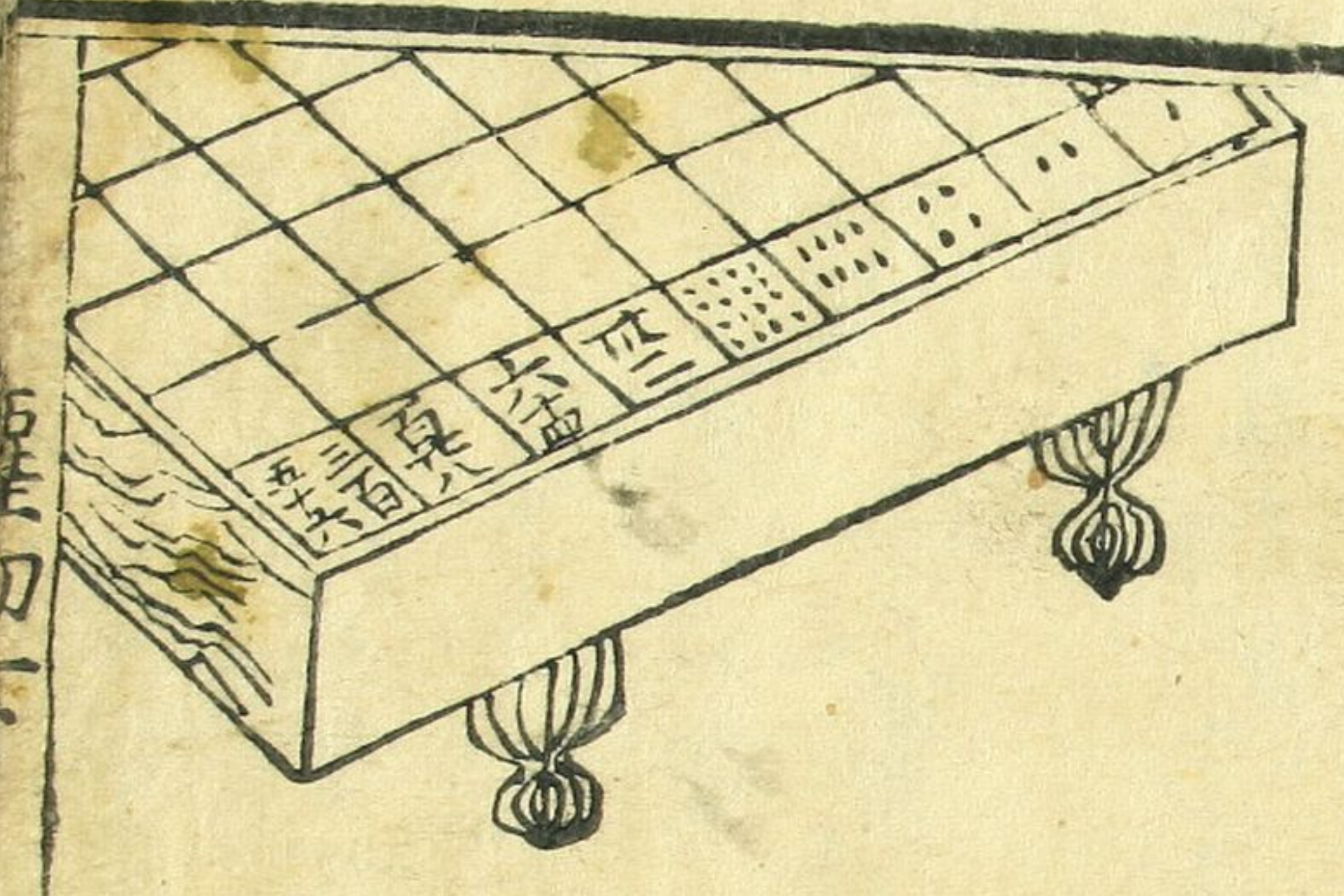
令四百八十七万六千三

百九十一石又汁六斗

八合七勺二才又粒二粒也

これ日本国中のよあらり

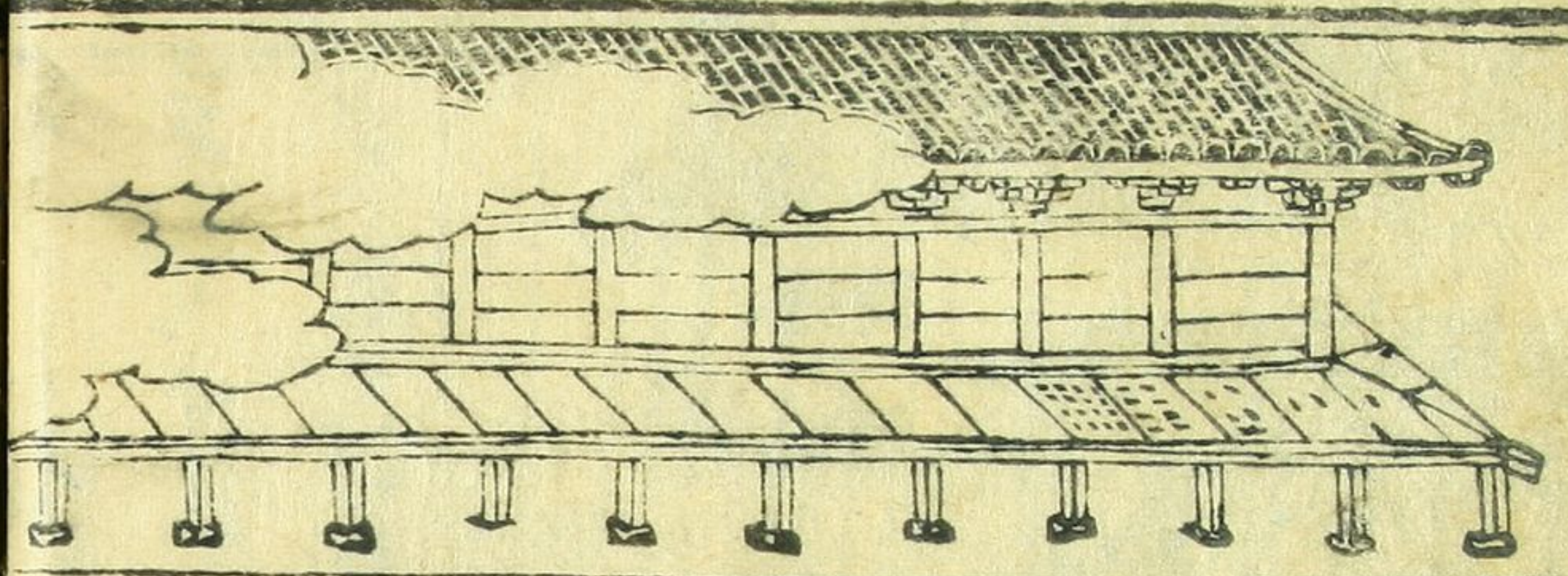
万万年にてしたぬえ











所三ツの。堂の二まい。本二ツ  
 五。次のまよ。三ツ。五。二。次。  
 四ツ。五。め。び。ま。い。ま。い。ま。  
 ち。して。五。所。三。ろ。ふ。活。五。所。の  
 け。米。る。ま。い。わ。る。ま。い。同

答曰

食二千八百十九石二斗  
 八升

新。り。の。戸。ま。う。て。百。廿。四。里。の  
 わ。ひ。こ。よ。積。一。五。斗。の。こ。ひ。よ  
 ま。う。て。の。世。に。る。ふ。り。の。ま。い  
 同

食二万千六百廿五石

一里よ。百八十貫。又。五  
 一。万。よ。八。千。五。百。一。十。石。二。斗。



食二万



江戸より京まで乃わひのこま  
金一ふと二ツありひよあふての  
ぢよわりのまをとも同

一ふの敷

合三千令六十二万二千七百

廿八あり

但一分乃長さ五分半にせ

右二ふ株よつりてい何程あると

同 谷百四十石八末二合

ニタタ

京より江戸まで百七里のあり

け一一つぶるひよあふり村ハ

るふり入とも同

け敷六億七千三百九十二万粒を

一石六計八中四八八タてあ

但一寸にけ一四十粒

あふりありあり

一殊ニ八百万粒入つとも

け一億とよあ

七十七町九町一石三尺九寸

皇二ノ二





江戸より京まで百廿里のる  
 一里三人つゝ立つものにて  
 人数ふやかくわらう向

答曰  
 二千九百九十九人



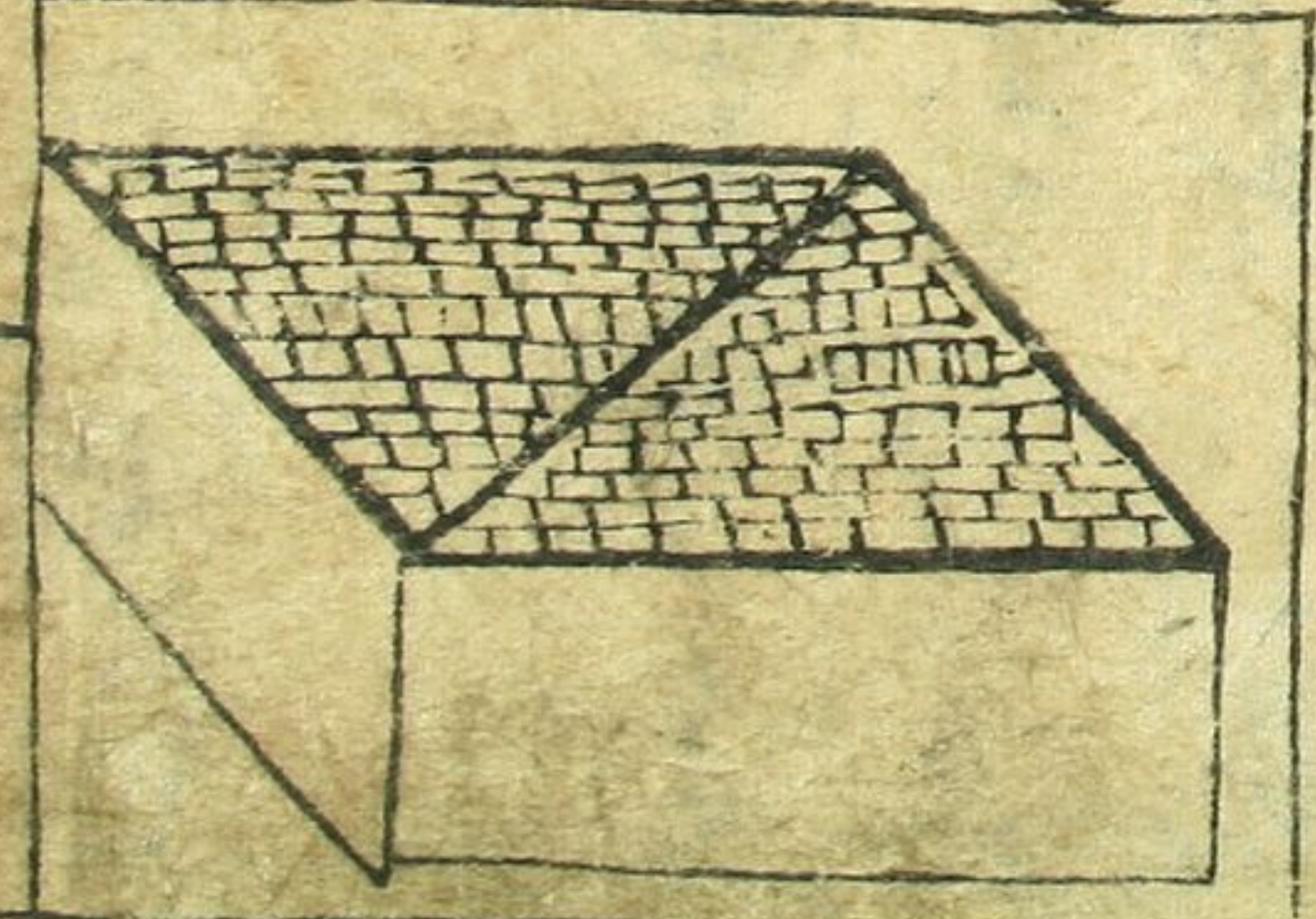
金子。一ぶと。一珠よ。あふほへ入。  
 一ふと。一珠よ。あふほへ入。

答曰六千八百四十八

但一ふと  
 長五分半  
 廣三分半

右一木のかり。他つ付一文一分七厘  
 七貫九百九十四文

右紙つとり。ツと十六文ぐへドて  
 紙百八貫八百六十四文





金一分一辨をくくよのてふ何ほせ  
すゆよあつそく向

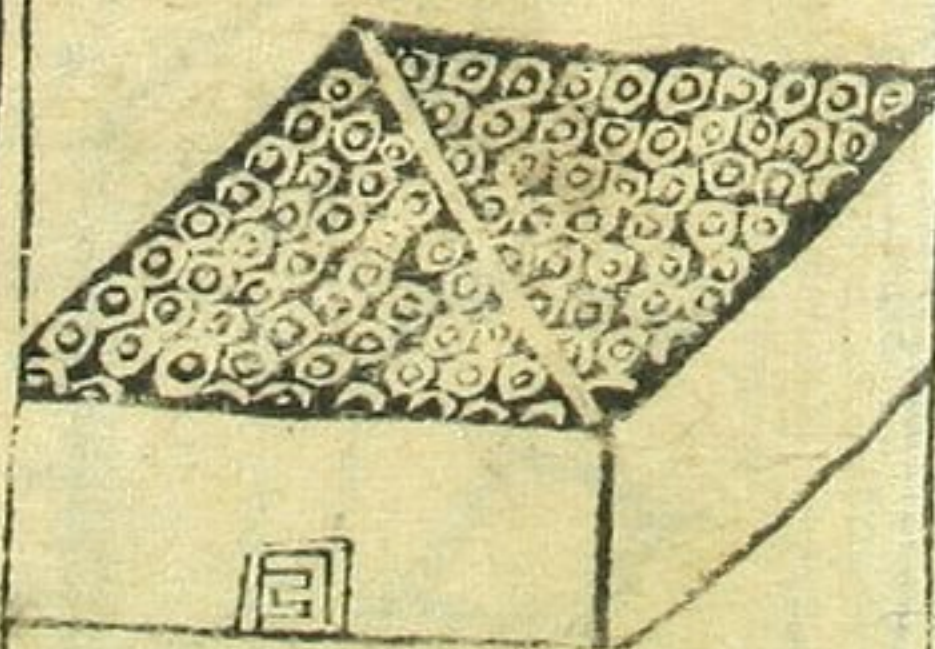
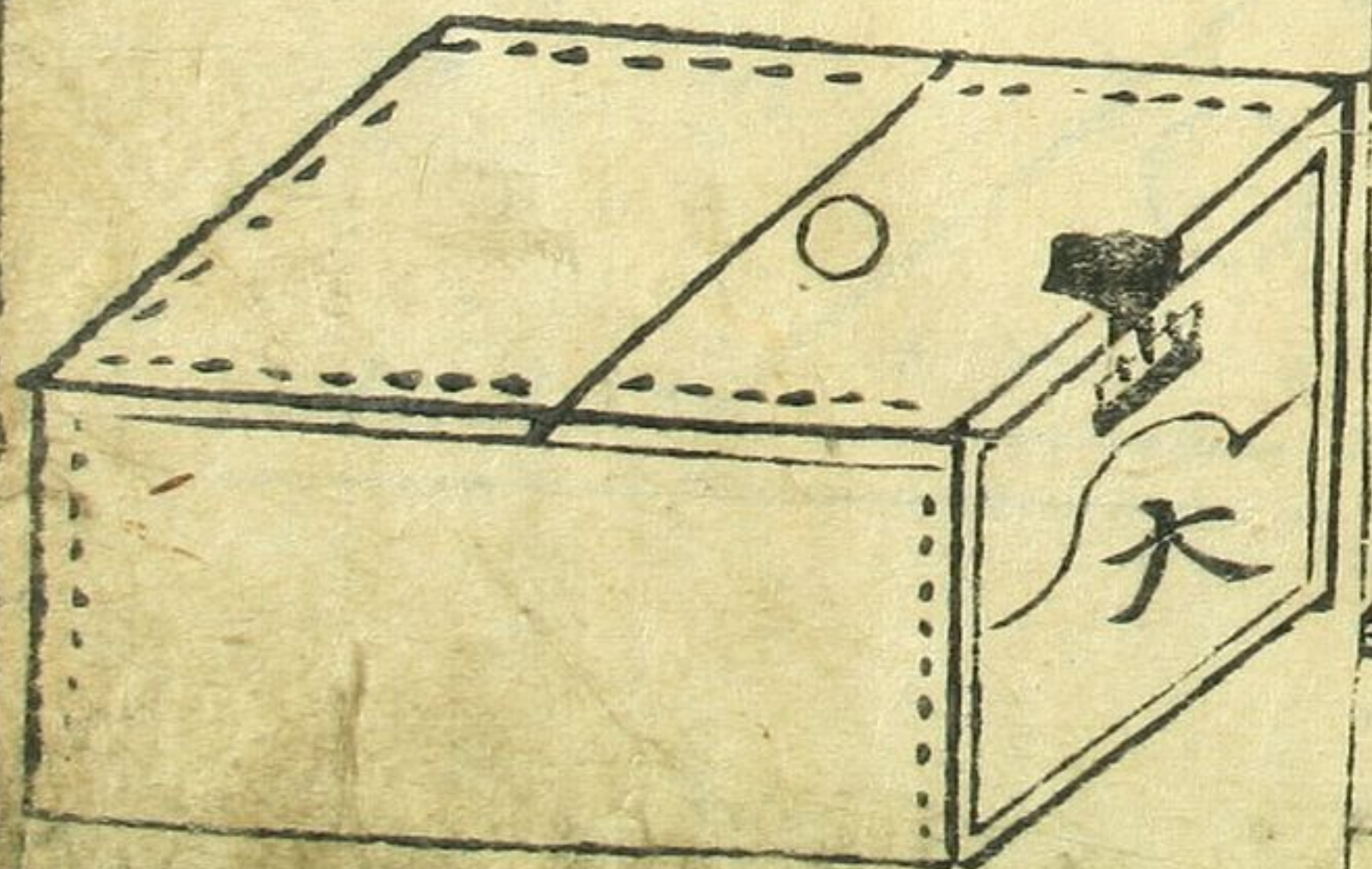
各日八十二り三尺二寸六分り四方よなを  
右金一ふ一半よ六千八百ふと一ツ  
きひよ長くあてふあるあつそ  
あつそく向

各日 一尺七寸七分

せらあつそく一尺二寸五分よあつそく  
入そく向

各日 二貫五百十二文

又せ六百貫入<sup>に</sup>後<sup>に</sup>  
各日一尺二寸六分四方六面  
但せ六寸四分八分  
あつそく又四方あつそく





塵支下

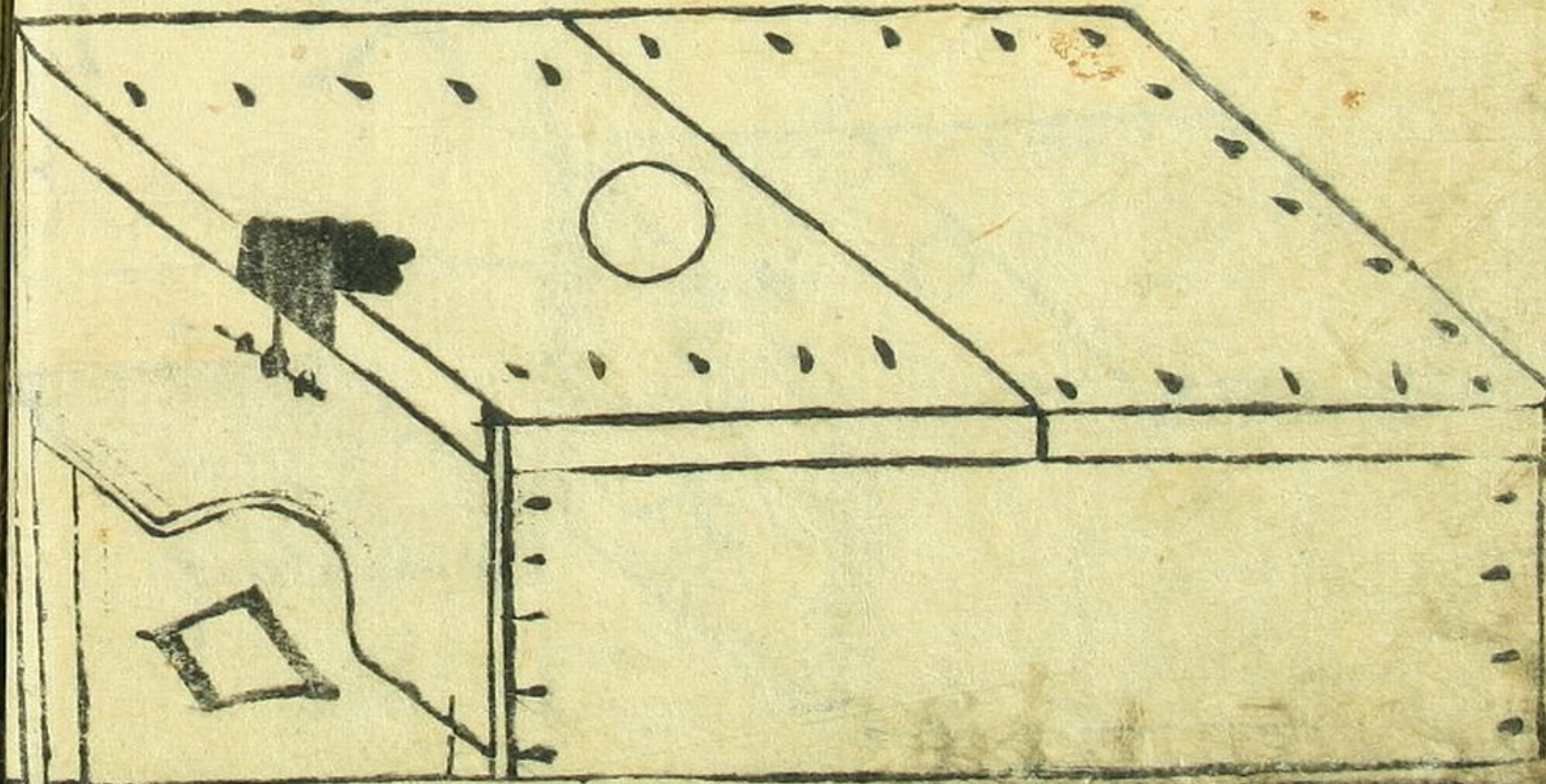
一乃四方のせむごま  
むたふりし今一向

答曰

一乃八百里二費三百里二

又兼いけしこま

一乃三石九廿二味入



日本国中よ一乃ふりあめり敷い何れ  
あこそ一向

答曰

一乃今令十二兆九千六百六十億つ也

右之敷けしよつとりてふふりし今一向

三千四百九十一石又少し

但日本東西長き九百廿七里十八町と  
又南ふ凡そ二百里と一里廿六町二町  
六十つら。一乃八尺六寸五寸。一寸四方より五つ  
り。何れりなり

塵支下



孫とて。正月は。父母いて。子と十二  
 月。おやとて。十四は。女。この孫とて  
 二月は。子も又。子と十二は。子。うむ  
 の。おやとて。九十八は。女。かくの  
 一月は。月は。一夜つ。おやとて。まよこも  
 びこも。月つきく。十二は。うむ。時よ。一年  
 中ふ。孫とて。おやとて。女とて。同

合二百拾六億千二百五十七万零四百一  
 十



右に孫とて。一月は。孫とて。合つ。く。うむ  
 つ。り。あ。う。う。一月は。孫とて。うむ。同  
 答曰

○千三百八十四万千二百八十七石二斗六合  
 右に孫とて。一日は。ひく。うむ。つ。り。あ。う。う。ハ  
 日本国中の物。女。二日。は。く。う。う。う。う。ハ

壺の下



右に録をて自中と  
しりきく時ばらあし  
まよひしを向

答曰  
二百七十四返と  
余百廿三里  
十二町とる

但福とて一里よ八廿六丈  
つ希つつよりあり日た  
まより凡ソ二千二百里  
みつよりよしてし



福とて父母二玉の移るに月よ二おの  
うむ一年中よあう成

穀二百七十六億八千二百五十七万四千四百二

右に移すことりて四方

り入てるあけ向

○四里六町五十四方

但一坪よ三百廿八丈つ

右につよりよし





右に稲をこし一斗よげし一粒のふりきり  
戸河のけしるふがし入るも向

六十九石二斗六升三勺三勺六粒ニツふり  
但平にいけし四百方粒入つともり

右に稲をこし一斗よげし一粒のふりきり  
戸河のけしるふがし入るも向

粟  
四千六百十三石七斗六升二勺四勺  
但一斗に六万粒入つともり

日本國中男女の教行  
男教十九億九万四千八百廿八人  
女教廿九億四千八百廿八人

合計億九万九千六百廿八人

右に人数と一斗よげし  
戸河の日本乃まじり  
ともりきり右に米入人  
ちりあして日よ米入人  
合し向



日本四廿



一百三米 北寄四千四百九十八石二斗四升八  
 一年中八百六十七万二千三百七十六石

九斗六升

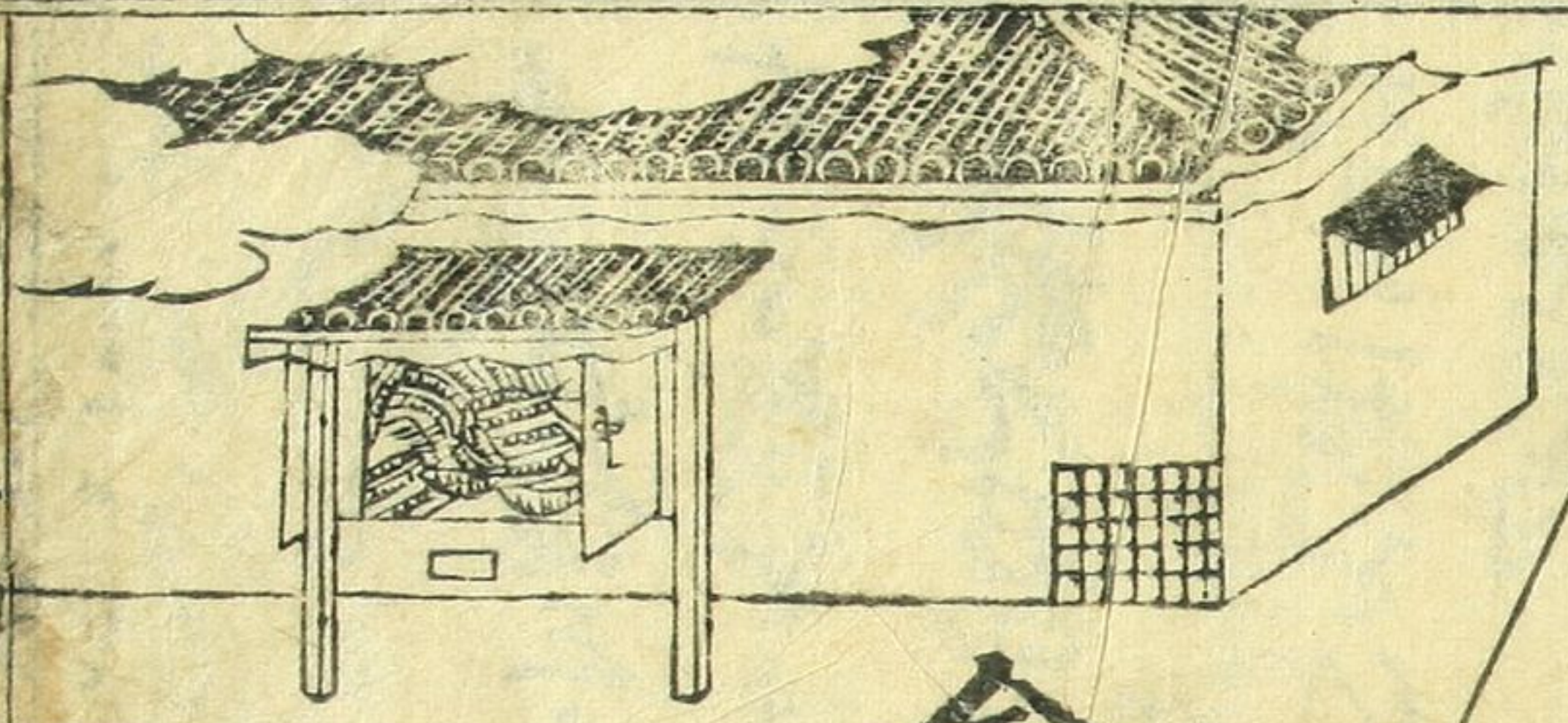
但年申と三百五十四日おつとりてし

右男女の救一房四方小十二人ツク居りつかり

一とらこていふふり  
 と同

長十一町廿一房  
 横十町あり

長十一町廿一房  
 け内人ありひて  
 男女より小  
 四八億九万  
 九千六百半八を



世に又とひよく一とふよして此目  
 よいふよかよはぬと向

共計三万六千八百七十費九百十二又

右目見  
 二万二千三百六十九費 六百  
 目せん九五

合五十五万九千二百四貫五百五文

但九十六又百八

右とせにふかぬは入二向

長十二房 ひろき四房

より一房半ノくろよ入二



米一粒といふく一ふりて廿日ハ  
ふかかよぬき向

米穀五億三千六百八十七万九百十二粒ニ  
右ノ穀とますいりてくれ

○秋九石四斗七升八合六勺六分三厘三粟  
但一斗は六万粒入つたり

大豆一粒といふく一ふりていりよが  
ぬき向 但一斗は五千粒入つたり

○千七拾三石七斗七升一合六勺二合

さね一ふりのまねさきたりの  
をよつげてます時よ  
長さるふかか向

○長七里十町廿五畝五反三寸  
まの穀千八百長あつて二斗八尺  
一尺三寸一寸九十六分

















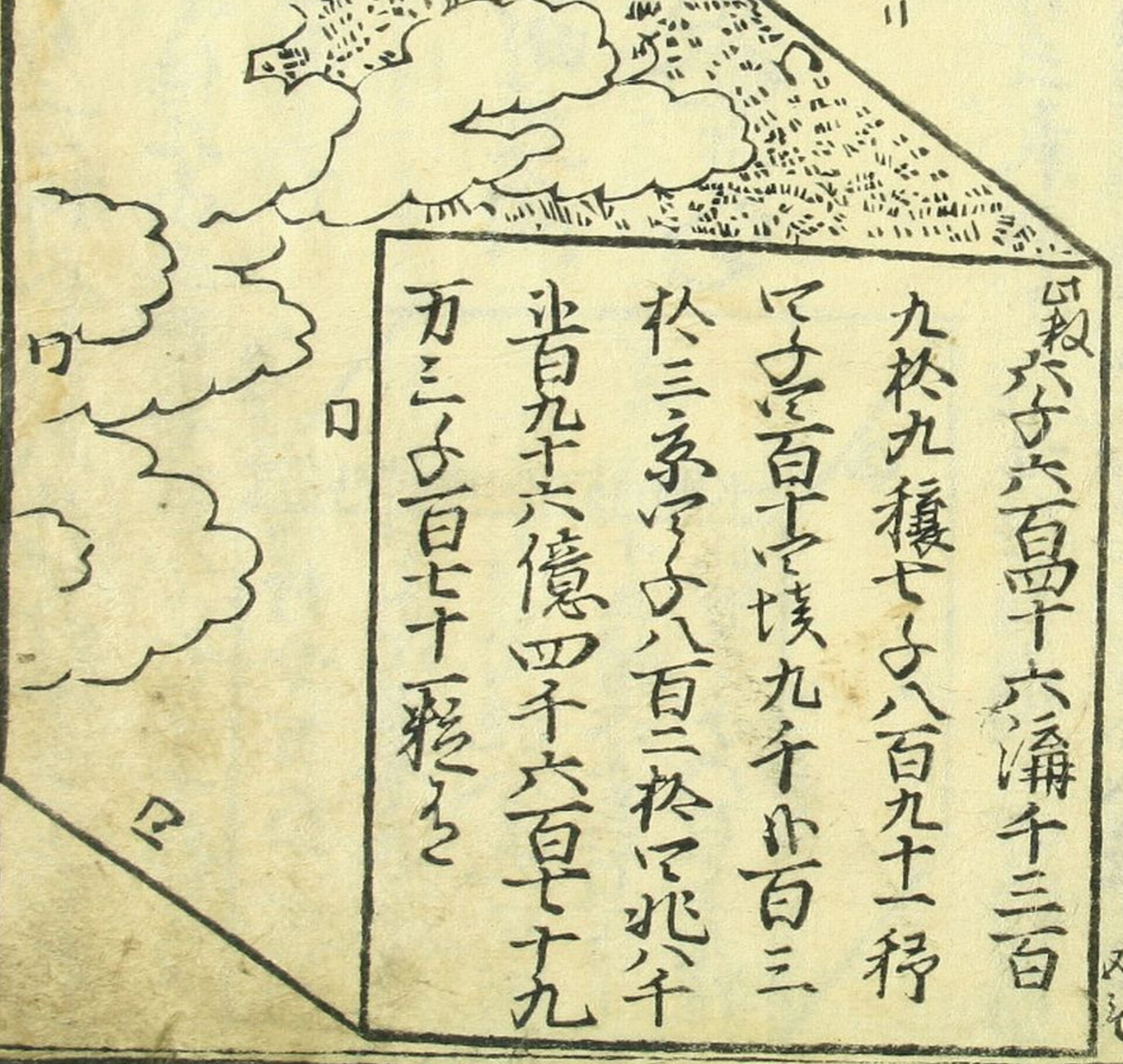
け一粒と目よくしてふりて百廿日の  
 ろものくしたる数あるなりともを向  
 六千六百四十六海千三百九十九穰七千八百  
 九十二秭四千五百七十九粒三千六百四十  
 五系千九百令三兆五千三百令一億四千  
 令十七万二千二百八十八粒よぬし  
 右に教さんのがりてにてはけよとれよ  
 これ何れともよりたあまおしるる右に教を  
 て方六面よつてくくくせし

一里  

 十廿方九千三百九十二里九町九百一尺七寸二分  
 又此  
 又此

一町ハ  
 六十方  
 一町ハ  
 六尺八寸  
 一分  
 一分  
 一分  
 一分  
 一分  
 一分

十廿方九千三百九十二里九町九百一尺七寸二分



一町ハ

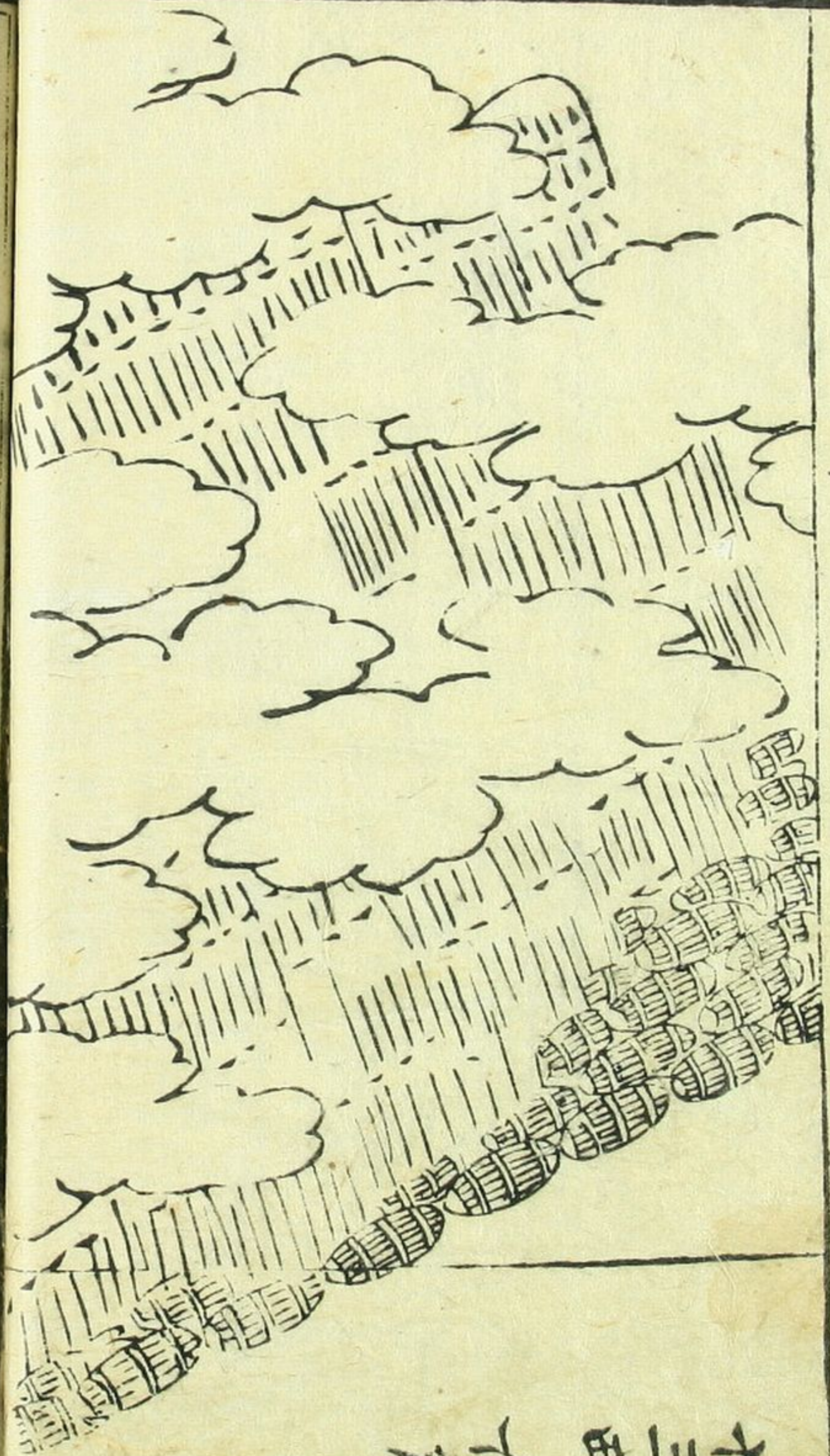
一畝







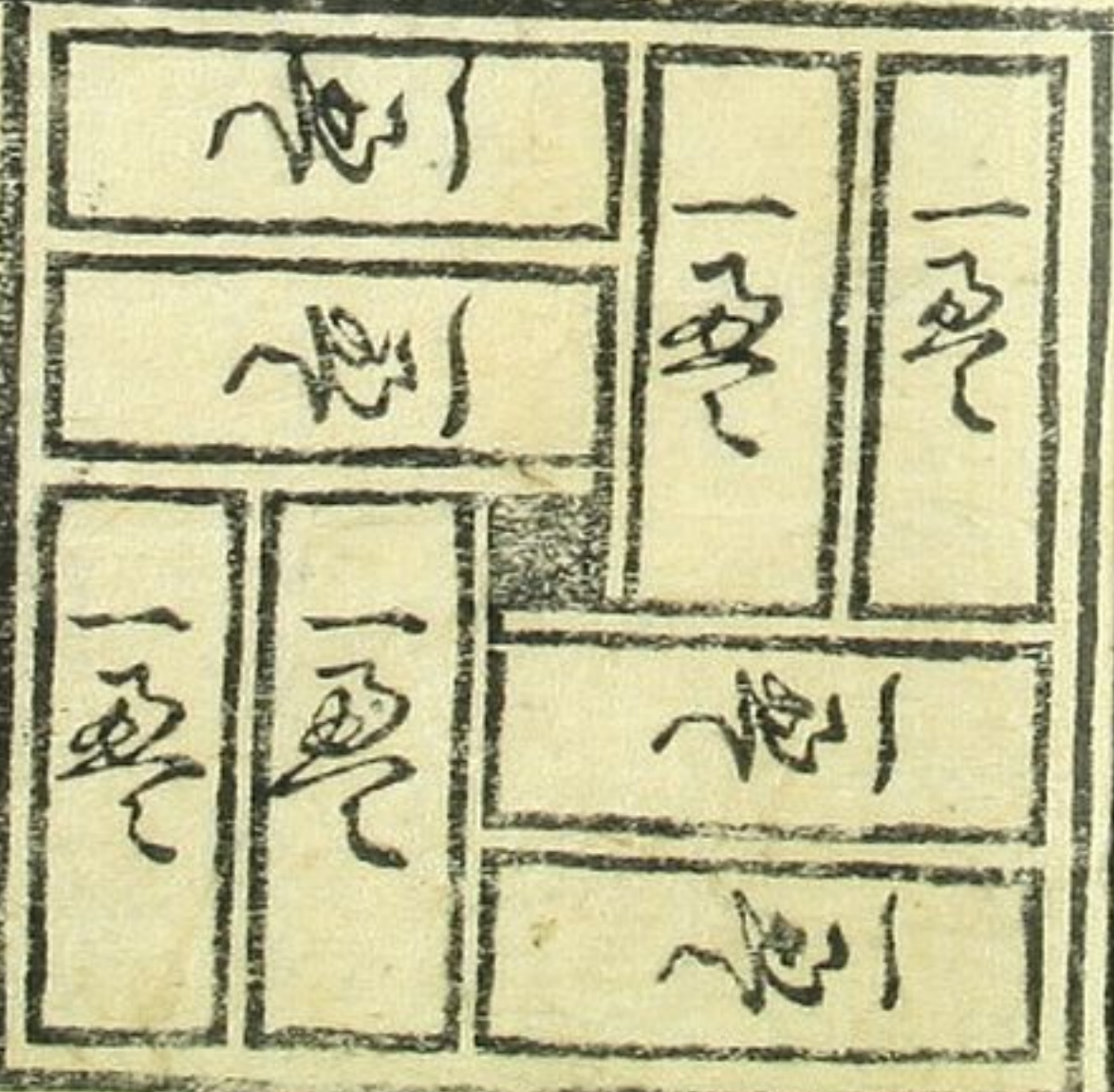
日本國中六十六ヶ国の米九ツ四千方  
石五ツ一斗中一ツ一斗米五斗十石五斗  
より十三町廿方四方より



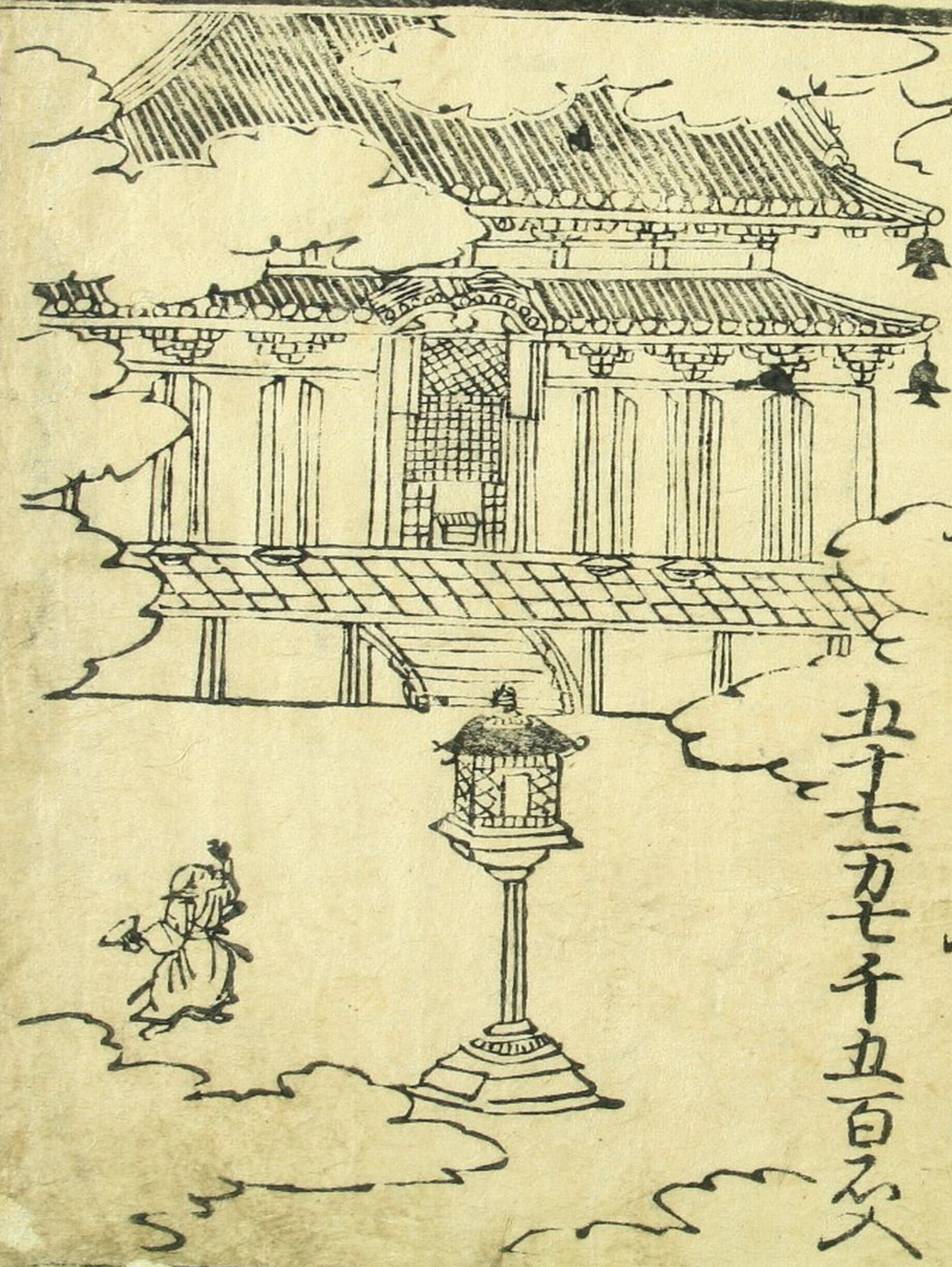
十三町廿方

八重の葉の産みぬし中よ  
いろよとたえてたこの  
とまかきと

十二町半葉の中よ  
別中のやと入  
めけし







大佛の堂米と八肘ハる米ヤハ入る一向

五十七万七千五百石入

千石と米と八肘ハる米ヤハ入る一向  
 五十七万七千五百石入

長廿五尺

但作敷ハ五百坪也

十五石と米の中よ  
 長一尺ひろき別中  
 のろがいらり  
 五てまより一ろつ  
 と六肘ハる米

一石	一石	一石
一石	一石	一石
一石	一石	一石
一石	一石	一石
一石	一石	一石



三里のちちと三人して  
 びま二正よのりわさす  
 時 八まんまつのりそあ  
 向

一人前よ  
 二重ツ  
 の



さろぬきんりのあさ  
 よてぬのよまけそなよ  
 りのえいそとてあ  
 わよせてまけいんよふあ  
 ナニえんつとまねい十二え  
 あすり又人よまよ十でえん  
 つまねい六えんたうほ  
 みとけいぬきんの敷布敷  
 なるあけい同ぬきん九人  
 ぬの百丹え





百五減

あつ二沙と二入してひける  
 時よ二米もちす二七米もちす  
 くれちくみ米つ二ツにひて  
 とれちくみ時  
 まろ二米もちす二七米もちす  
 七米もちす入二七米もちす  
 二米のちろ時七米もちす  
 りの計ひけ入あけくひ二米  
 と七米入て又三米ひく二米



米つらとまひて熱の二七米もちす  
 七ツひく時二ツ揚くと七米もちす  
 揚くと七米もちす二ツひく時二ツ揚くと七米もちす  
 熱の数ハ於六あつと七米もちす

七ツひく時二ツ揚くと七米もちす  
 七又又ツの時七米もちすと七米もちす  
 時の七米もちすと七米もちすと七米もちす  
 十と七米もちすと七米もちすと七米もちす  
 八と七米もちすと七米もちすと七米もちす  
 七と七米もちすと七米もちすと七米もちす  
 六と七米もちすと七米もちすと七米もちす  
 五と七米もちすと七米もちすと七米もちす  
 四と七米もちすと七米もちすと七米もちす  
 三と七米もちすと七米もちすと七米もちす  
 二と七米もちすと七米もちすと七米もちす  
 一と七米もちすと七米もちすと七米もちす

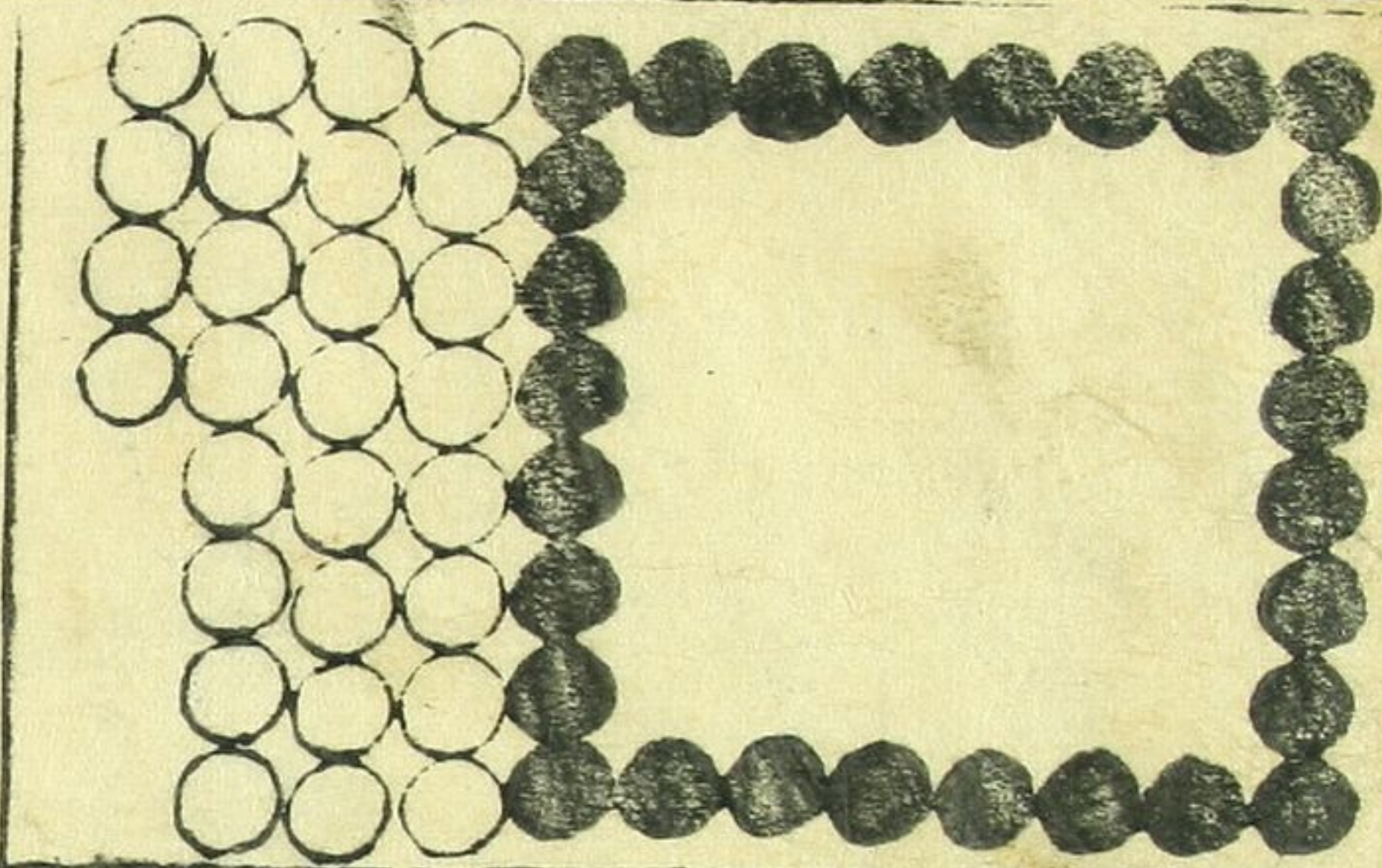
唐去下

七二



茶師の算

入子算



めけり方ニありて一有ハツ  
 三有ハツのハツと名の  
 まる垂三方とハツと又  
 ハツと今て足ハツと又  
 是ハツと今と今と今と  
 と今と

○外松ハありと云

は小末二ツと云々のまん用おしと十六と入ハ  
 外小松外松ハ八と云いハ十二と入ハ  
 外小松外松ハ八と云いハ十二と入ハ  
 入子算の付ありと云いハ十二と入ハ



一五分一五分二五分三五分四五分

まろ七と云ふときと云ふ七と云ふ六分  
 多しと云ふ七と云ふ六分の字ニと云ふと云ふ  
 五と云ふ一と云ふ六分と云ふ六分と云ふ  
 是と云ふ六分と云ふ六分と云ふ六分と云ふ

摩知下

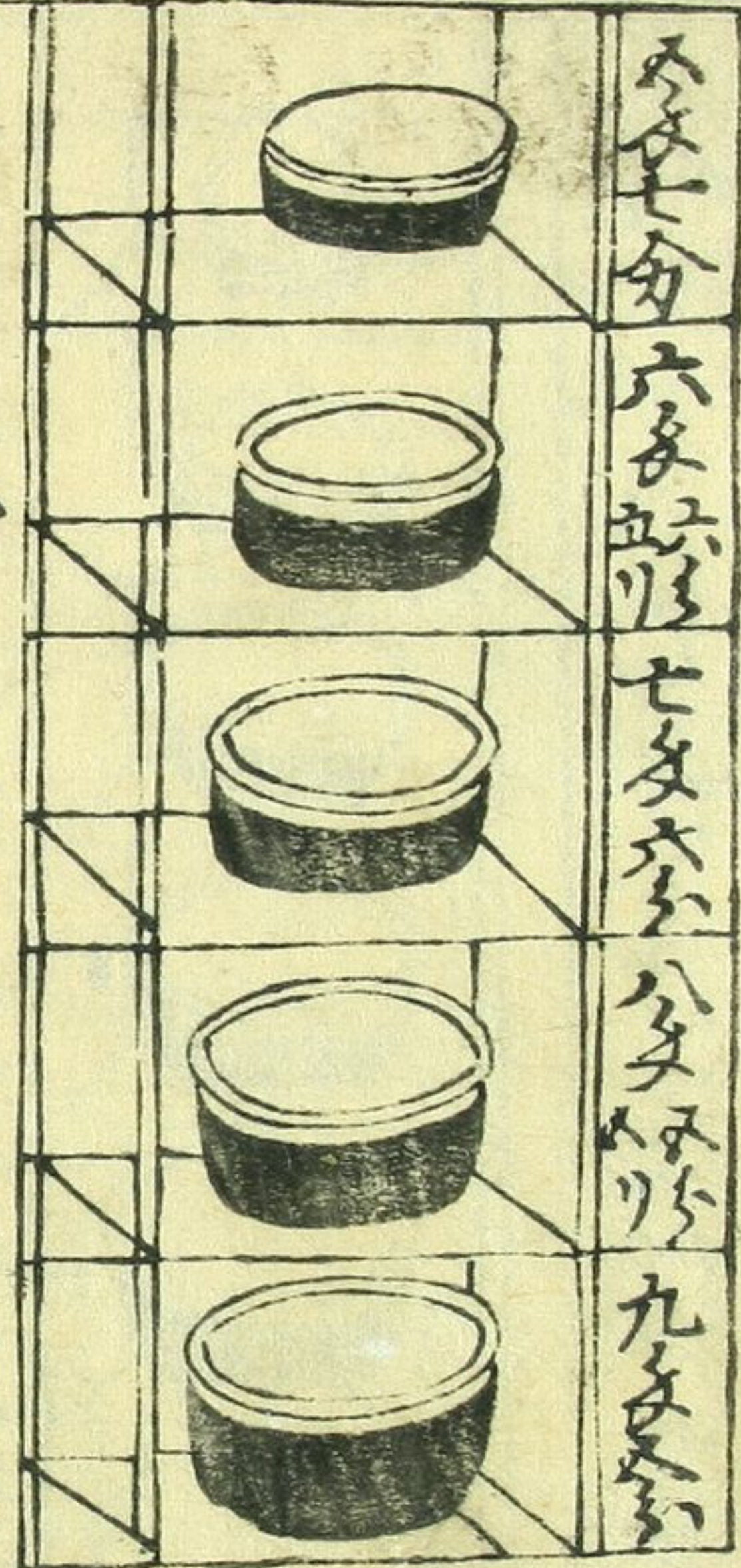
十三

五十一



賞合分

唐より入りのみツ入子を報成八分とす。時  
 既の次ハ一よりさかりニツめ。二よりさかり  
 三ツめ。三より下五ツめ。ケラより行セ。一ツめ。何



五分  
六分  
七分  
八分  
九分

法又たよき  
 一ツめよきと  
 二ツめよきと  
 三ツめよきと  
 四ツめよきと

九分とた一加三ツめ。八分と加四ツめ。七分と加五ツめ。六分と加六ツめ。五分と加七ツめ。四分と加八ツめ。三分と加九ツめ。二分と加十ツめ。一分と加十一ツめ。五分と加十二ツめ。四分と加十三ツめ。三分と加十四ツめ。二分と加十五ツめ。一分と加十六ツめ。

ありさ記のつじ地三人の中報割付す

一めんきん五百文付。一らんか。七拾文。  
 一まきこ地外百八拾文。一ツと。八分。五分。  
 右き宝のあをひとあふ報百文。終費目よか。  
 一ツおれと三人あひ合費。報と守。右。あ。  
 報。終。費。八。百。文。ハ。系。の。高。人。の。守。  
 報。入。終。費。三。百。文。ハ。さ。ふ。の。高。人。の。守。  
 報。終。費。九。百。文。ハ。大。坂。の。高。人。の。守。  
 右き宝のあをひとあふ報百文。終費目よか。  
 一ツおれと三人あひ合費。報と守。右。あ。  
 報。終。費。八。百。文。ハ。系。の。高。人。の。守。  
 報。入。終。費。三。百。文。ハ。さ。ふ。の。高。人。の。守。  
 報。終。費。九。百。文。ハ。大。坂。の。高。人。の。守。  
 右き宝のあをひとあふ報百文。終費目よか。  
 一ツおれと三人あひ合費。報と守。右。あ。  
 報。終。費。八。百。文。ハ。系。の。高。人。の。守。  
 報。入。終。費。三。百。文。ハ。さ。ふ。の。高。人。の。守。  
 報。終。費。九。百。文。ハ。大。坂。の。高。人。の。守。

唐より



糸の高人のかひ

いんえん 百一十文

いんぐろ 小終八斤十文

# 六拾四貫八百

いんぐろ 三子百二斤

いんぐろ 百十三貫三丈八尺一寸

こがいの高人の子

いんぐろ 八十一斤九丈三寸

いんぐろ 七二斤八丈一寸

# 九拾二貫三百

いんぐろ 七十七貫半八斤百廿月

いんぐろ 九十一貫三丈九尺九寸五分

大さうの高人の子

いんぐろ 六十七斤一丈一寸

いんぐろ 十八斤八丈二寸

# 甲二貫九百

いんぐろ 三子二百又十二斤十目

いんぐろ 七十八貫三丈二尺八寸五分

まろ人あん二百五拾斤あふとさきて一人あのかひ

六千貫費八百目とわかれは二六二とわかれと世に

百六拾貫目あつたはにんあん百斤二又とわ

け二又とわ事あれぬ時お一斤のせりあ百六拾目と

あつたは二又とわりあつたは百一斤十目とわ

あつたは二又とわちとわ半とわとわあつたは百六

きん十貫とわなかりとわ六千貫費八百月の

あんの人あんのより付あり

又らんうと七千斤と六拾貫費八百目とわ

三六とわこれと世に百六拾貫目あつたは











親子家後



小百五十目とありてとれ七百十六石を  
計とある一

又ひよのころらびの六貫八百めらんま  
米もよがしつてあふとらふは

○小百七十年を計りてあひし

存と七百十六石を計りて六貫八百目とあり  
加れいせ八七二五二とぬれと計りて十貫  
目とありととれ八二百七十年を計りて  
とあるしとれひよのころらびの

人廿二歳は女は家と後とてひよのころら  
子の合目一年よらん米二石つれ六一年米  
六十目いへん用中せ廿二歳まとのり米と

子とて二石の利と  
計りて是をぬれ入  
垂る是もあつり乃  
ぬりて付後とら  
らん米千石  
つる 廿二貫目  
廿二歳までたつて







壬

十五 二百五十七石六斗五升六勺

壬

十六 三百零二石九斗一升八勺

壬

十七 四百一石六斗八升八勺

壬

十八 五百八石六斗九升三勺

壬

十九 六百卅三石三斗八升六勺

壬

廿 七百十七石八斗九升三勺

壬

廿一 九百九十石八斗八升六勺

壬

廿二 千二百卅六石一斗五升

壬

廿三 千五百卅五石三斗九升六勺

壬

廿四 千九百卅六石九斗九升

壬

廿五 二千四百四石三斗五升八勺

壬

廿六 二千九百十三石七斗七升六勺

壬

廿七 三千七百六十二石九斗九升

壬

廿八 四千六百六十七石六斗六勺

壬

廿九 五千七百九十九石三斗五升

壬

卅 七千二百九十八石三斗五升六勺

壬

卅一 九千零十二石三斗八升七勺

壬

卅二 一万一千二百七十七石四斗

壬

卅三 一万四千四百九十九石六斗

壬

卅四 一万七千五百四十七石三斗七升

南

三



土	土	土
卅八	卅九	四十
二万七千七百六十一石三斗三升	二万三千四百九十九石六斗三升	二万九千八百九十九石六斗三升
五百六十三石又百七十五石	七百九又六百六十六石	八百七又四百八十八石
卅七	卅八	卅九
三万四千又石三斗九合六勺	四万二千六百九十九石六斗三升	五万三千五百五十九石又三斗
八百七又四百八十八石	千九百三十三石又二百六十二石	千三百五十九石又百七十八石
卅六	卅七	卅八
二万七千四百九十九石六斗三升	三万四千又石三斗九合六勺	四万二千六百九十九石六斗三升
七百九又六百六十六石	八百七又四百八十八石	千九百三十三石又二百六十二石
卅五	卅六	卅七
二万七千七百六十一石三斗三升	三万四千又石三斗九合六勺	四万二千六百九十九石六斗三升
五百六十三石又百七十五石	七百九又六百六十六石	八百七又四百八十八石

子七人... 報千八百... 報千九百... 報千六百...  
 兄より次男より五つり... 兄より次男より五つり... 兄より次男より五つり...  
 一より三男より四女より五つり... 一より三男より四女より五つり... 一より三男より四女より五つり...  
 五男より一より五男より六男七男... 五男より一より五男より六男七男... 五男より一より五男より六男七男...  
 一より三男より四女より五つり... 一より三男より四女より五つり... 一より三男より四女より五つり...  
 兄 報五百五十貫九斗八升八匁... 兄 報五百五十貫九斗八升八匁... 兄 報五百五十貫九斗八升八匁...  
 次男 報二百七十貫八斗八升八匁... 次男 報二百七十貫八斗八升八匁... 次男 報二百七十貫八斗八升八匁...  
 三男 報二百零七貫七斗七升八匁... 三男 報二百零七貫七斗七升八匁... 三男 報二百零七貫七斗七升八匁...  
 四女 報百廿三貫七斗七升八匁... 四女 報百廿三貫七斗七升八匁... 四女 報百廿三貫七斗七升八匁...  
 五男 報二百廿二貫七斗七升八匁... 五男 報二百廿二貫七斗七升八匁... 五男 報二百廿二貫七斗七升八匁...



六男  
七男

二百貫五百十又各八分六リ

七男 百十貫四百廿七又二分七リ

先兄より三貫目と左より五又右二男のよ五貫目

と重是五とくれは又百貫と女是と左加三男

は百貫九とくれは四百五十貫と女又左加四女は

百貫百貫五とくれは三百廿又各一貫是左加五男

百貫百貫九とくれは百又各一貫左加六男ハ

百又各九とくれは三百六十貫又各一貫左加

七男ハ三百六十貫又各一貫とくれは三百廿八又各

一貫は加左三貫二百七十二又各一貫はリ

七人の子はよ米二千石はつる時赤子初年

三月ころはあつて米多の事

兄廿五歳 二百廿八石九斗又各一斗

二男廿四歳 二百廿七石六斗一升九合

三男廿二歳 二百七十六石一斗九升

四女 廿歳 二百八十九石七斗一升

五男 十六歳 三百零七石六斗一合九勺

六男 十七歳 三百十石七斗八升又各七勺一才

赤子 十五歳 三百廿三石一斗三升三勺



新田知新

は白兄より二男一年はる兄より二男は定年  
ちうめけは兄の<sup>カキ</sup>より一は弟<sup>カキ</sup>く乃中れらる  
りりとおき合所又も又兄乃中一は定歳  
七とくれ首七十八と成是一者く所又と加  
時二百十と成これとほりて米二千石り  
廿八とけりてはとのりくこれ兄の成米と  
志れし又二男は兄の所又歳一二年はるを  
加へて廿六と成是と二千石よりけりてはと  
りりくこれ二男のより米と志れし二男は  
皆右より成るにあり

西村のより地女ひのりよはとと地女とあり  
知新ある千五百石よりころとの成る六百  
廿一石八斗八升六合五勺内東村は定七合が  
西村は三ツ九斗八勺とと西村のより知新  
時よは東村より八斗八勺とと向

東村のより八百三十九石七斗  
地女二百九十二石七斗九合 三斗九合が

野のより六百六十七石三斗  
地女二百廿九石七斗七合 三斗九合が  
は定より千五百石より三斗九分ととれは六百



八十石とぬれとぬれぬ六百八十石八分  
六斗六人の内ありけり結て六十六石八分奉  
交ふこれと八とありけりぬれぬ東村のちと  
志れしは八とありけりぬれぬ西村のちと  
九分八結て八分とこれぬれぬと

知り上中下とぬれぬ付てぬれぬ  
多五百石の内上村多五百石中村多五百石  
右下村多五百石右多五百石の内あり  
三村とて先よ九十石けりてぬれぬ  
上村百石右のぬれぬはわろろり同時

上村物ぬ八ツ七分七リ二毛ぬはわろろり云  
多二百石

物ぬ百六十七石字字奉

中村物ぬ八ツ一分七リ二毛ぬ上二分とあり  
多百七十石

此物ぬ百八石九分二奉字

下村物ぬ七ツ九分七リ二毛ぬ中二分とあり  
多百三石

けぬ百三石六分三奉字



大工之割

此は中の村より百五十石を二分とくれハ三石  
 五分と下下の村より百石を二分と倍して  
 五分とつとくれハ又石五分と三石八石六分  
 百十石(加へて四百十八石六分)これと云ふ五石  
 とつとくれハ上村の物ハツ三分七リニ毛と  
 くれハ中ハ是も二分下ハ中ニ二分也

上村の所ハ ハツ三分七リニ毛有り

中村の所ハ ハツ一分七リニ毛也 上村ニ二分

下村の所ハ セツ九分七リニ毛也 中村ニ二分

右ハ此と云ふはこれの事と云ふは此と云ふは

上大工五百五十人 中大工千百人 下大工八百  
 六十人 三合合千五百人(米百石  
 海村時より中ハ七合より中より下ハ  
 八合よりよりして百石の米と云ふけと  
 此村ハ上大工一人有り多しやわらるる向  
 上大工二人有 三合八合ニテモツ  
 中大工二人有 三合ニテモツ 右ノ上リ  
 下大工二人有 三合ニテモツ 中ハ八合  
 上五百五十人ハ 廿六石半九合六分  
 中千百人ハ 三石又石三合六分也



橋の 割

下八百六十二人よ廿八石又計八半六合又  
は日中大五千百人よ七人よ七石七斗  
と女又七人よ八合と合せくと半又合  
是を下大五八百六十二人よ七石九斗  
と女これよ七石七斗と加つ時よ廿八石七斗  
これよ又百石と加つ百廿石七斗と女これよ  
二千五百人よ七石七斗と女これよ  
二斗又女よわつとと女これよ

又上大五五百六十二人のよ七石七斗と女これよ百廿  
石六斗と女これよ七石七斗と加つ時よ廿八石七斗  
これよ又百石と加つ百廿石七斗と女これよ  
二千五百人よ七石七斗と女これよ  
二斗又女よわつとと女これよ

七町のはよ二三三四五六七又三町のは二三三合  
計はよこれよ字三と女とつこれよ費四百六  
十二と女これよ七費目とつこれよ時八費  
四百六十二と女これよ地町敷十町とつ  
これよ八町の六百と女これよ字分三とつこれよ  
計十五と女これよ計十五と女これよ







立木長赤

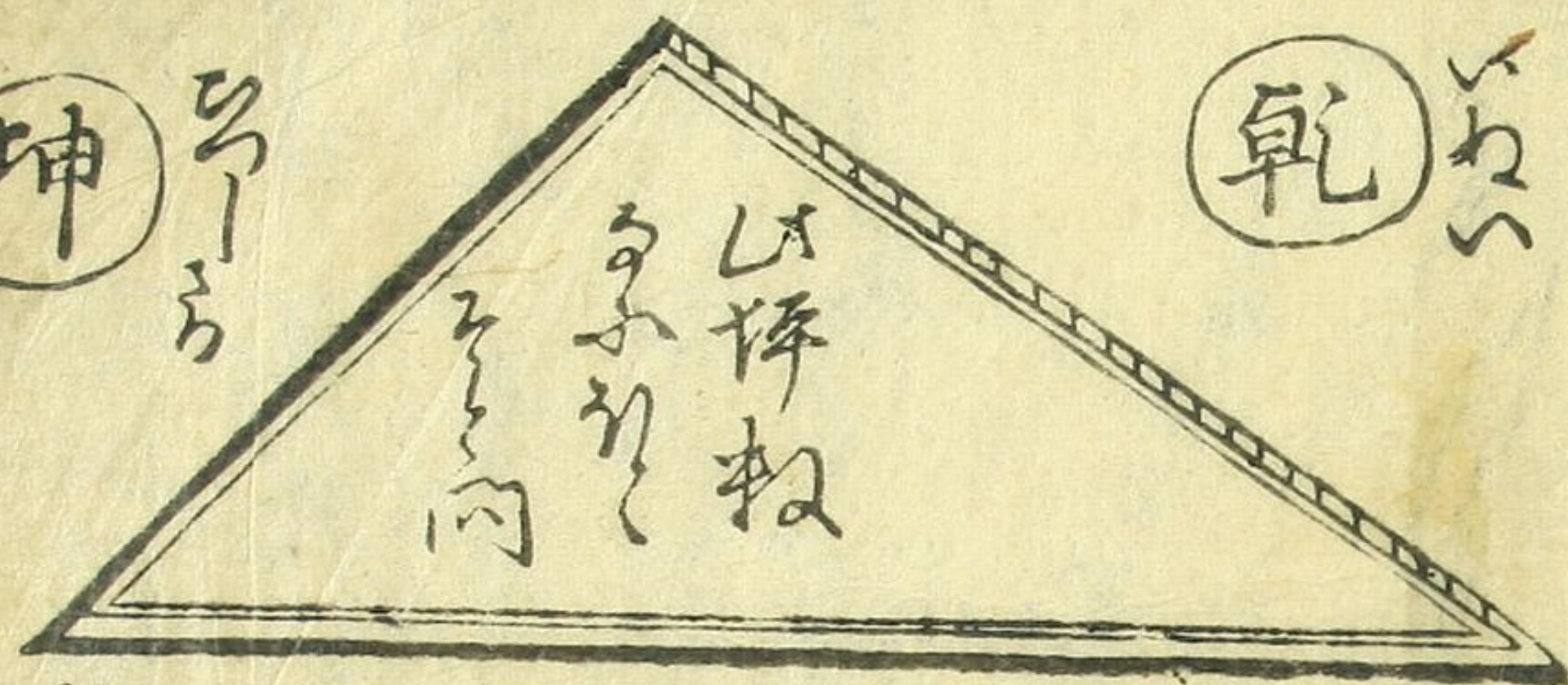
立木長赤  
立木長赤  
立木長赤  
立木長赤  
立木長赤  
立木長赤  
立木長赤  
立木長赤  
立木長赤  
立木長赤



勾股積

坤

ひら



乾

いね

東いねいねらまよりの二方た  
八十一なり

東  
又東方長さるおれを

いねの旁ひろさ同  
ひらさる方ひろさ同

東ひらさる方ひろさ同  
二方た七十二なり



山截積

今唐木を長三尺より一尺五寸あり  
 六尺すゑ口まより二尺五寸あり  
 け代報於牧也三人とてりいり  
 三人へおらよ三りてとり時よハ  
 本口よりこの長さすゑより  
 多ふりとりを同



二級四文

松木 八十本  
 檜木 五十本  
 け報合式費七百九十目

松木 百廿本  
 榎木 四拾本  
 け報合式費三百廿目

榎木 九十本  
 栗木 百廿本  
 け報合式費九百三十目

栗木 百廿本  
 榎木 七本  
 け報合式費百廿九目

右榎木松木栗  
 各百  
 け報合式費百廿九目



三 經 三 文

松木 貳本

松木 四本

松木 五本

松木 五本

松木 三本

松木 四本

松木 三本

松木 六本

松木 六本

三文紙合貳百貳拾有

三文紙合貳百貳拾有

三文紙合三百有

切りて是れと向ふ

上卷 初 五枚欠

中卷 完本

下卷 終 五枚欠

寛永拾八年霜月吉日



改算記の末尾にある塵却記の  
研究は、この板を基にしてある。また  
この新篇塵却記は遺題を掲  
載した最初の版である。

昭和十一年六月

小倉金之助



改算記の末尾にある塵部記の  
研究は、この板を基にしてある。また  
この新篇塵部記は遺題を掲  
載した最初の版である。

昭和十一年六月

小倉金之助



